

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371400793
法人名	有限会社かがやき
事業所名	グループホーム「かがやき」
訪問調査日	平成 19 年 11 月 27 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2371400793
法人名	有限会社かがやき
事業所名	グループホーム「かがやき」
所在地	名古屋市緑区有松南415番の1 (電話)052-625-6673

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 N203号室		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	平成19年12月31日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	18 人	常勤 4 人, 非常勤 14 人, 常勤換算	8.6

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	24,900 円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	12 名	男性	0 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「かがやき」は、1ユニット6人、2ユニットで12人の利用者で運営されているグループホームである。ホームは、大高緑地に程近い閑静な住宅地の中に立地しており、地域の中に溶け込んでいる。代表者と管理者のグループホームのあるべき姿についての「明確な信念」に基づいた運営がなされている。その基本の考え方は、ホームの名前にも使われている「自分らしく、かがやいて生きる。」であり、入居者一人ひとりの尊厳を大切にしたい、人間らしく、自由に、楽しく生活できるグループホームの実現である。平成15年の開設。4年を経過して、その理念は利用者、家族、職員、地域などにも浸透してきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>健康診断については利用者全員が定期的に受診はしていないが、週1回の介護保険の訪問看護によるバイタルチェックなど、また、医療保険による医師の往診の折には職員も同席し、利用者の日々の観察状況も報告したり、定期的な血液検査や、必要な医療支援体制により、早期発見・予防に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>項目一つ一つの内容について職員全員で話し合い、自己評価の意義も十分に理解しながら改善策の検討を重ね、情報の共有化も積極的に行われている。全員で取り組むことにより、質の向上につなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地元区政協力委員長、民生委員会会長、主任児童委員、学識経験者、医師、家族、ホーム管理者などで構成され、定期的に様々な議題で運営されている。これまでの主要議題として、『グループホームの役割』、『運営会議のあり方について』、『認知症について』、『グループホームの運営・経営内容について』、『外部評価について』、『地域とグループホームとの関係』等々があげられている。会議では出席者の中で真摯に話されてきており、サービス向上に向けての提案なども多く出されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との情報共有のため、毎月「かがやきニュース」を発行し、ホームの行事や出来事などを掲載して送付している。家族との交流を深めるための旅行や、誕生会への参加を勧めている。また、家族の相談や意見の吸収にも積極的に対応しており、介護計画の見直しなどにも家族の要望を取り入れている。運営会議にも家族代表が参加している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会への加入、各種行事への参加、「かがやきニュース」の配布、近隣喫茶店の利用、散歩、買い物など地域に溶け込み地域住民としての生活が定着している。懸案事項として、「お菓子作り」での地元の子供との交流等を通じて、防災訓練を含めたより一層の地域との連携を指向している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの職員は、「かがやいて生きる」という言葉を大切にしながら、利用者が生きがいと役割をもつことができる生活の実現に取り組んでいる。また、ホームでは開設当初より地域とのかかわりを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所で働く職員一人ひとりが事業所の理念を理解している。また、毎月2回の職員会議などで理念を確認し、その実践の徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでは、町内会への加入、地域行事への参加、ホームで作成している「かがやきニュース」を近所のお店やいろいろな事業所などに直接配布するなど継続的に実施し、地域住民との交流を深めている。	○	今後の予定として、地域の子供たちを招き利用者と一緒に「おやつ作りの会」を開催したり、より地域との協同に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員が理解・把握し、全員で自己評価に取り組むようにしている。また、外部評価を全員で話し合い改善策を検討するなど、その共有化を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で出された意見や評価を職員会議などで報告し、情報の共有を図ると同時に、必要な改善策を協議するなどしてサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が名古屋市のリーダー研修などの指導者として参加するなど、グループホーム全体のサービス向上に貢献しており、その経験などを「かがやき」の運営に生かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホームの予定や出来事などを記載した「かがやきニュース」を発送し、家族に情報提供をしている。また、日常的に家族との個別の相談・報告を実施している。家族旅行や誕生日会への参加の呼びかけや衣替え・オムツなど日用品の持込の機会を活用し、家族と職員の交流・懇談を多く持つようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に家族会の代表が参加している。家族からの意見や課題は職員会議などで協議を行い、課題解決に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くためには、馴染みの関係の維持が大切である。職員の異動や離職を最小限度に抑えるよう努めるようになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業時研修の一環として、他のグループホームでの実習を体験させている。段階に応じ、県・市などの外部研修へも積極的に参加させており、研修後は職員間での回覧や職員会議などで報告もしている。また、内部研修として、講師を招いてのケース検討会議や研修会を行い、職員育成のための努力を重ねている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの管理者たちは「県GH協会の調査・研究委員会」に所属したり、「市GH協会副会長」として他の事業者との交流を大切にし、サービスの質の向上への取り組みを積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族から本人の状況を詳しく聞き取ると共に、本人の希望などじっくり話をする。こうした話し合いの中から生活暦・価値観・不安や悩みなどの把握を行い徐々に馴染みの関係を深めていくように努めている。また、必要・希望に応じて体験もできる体制をとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の大先輩である利用者、日常の料理、洗濯、掃除などの生活の場面で、いろいろと教えていただき、という姿勢でケアに取り組んでおり、喜怒哀楽を共にしながら協働で生活を作り出すという関係・考え方を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、このホームの特色である、少人数でなじみの関係での介護を有効に活かし、入居者の、日頃の何気ない会話や行動にも気を配り、利用者の「思い」や「希望」の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護のあり方についての本人の希望や家族の要望を取り入れながら介護の原案を作成し、最終的には家族・本人・職員などが参加する会議で確定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の進行状況、効果などを常に把握しながら、一定期間ごとの見直しや状況変化に対応した見直しに努めている。職員が記録する情報や本人の希望、家族の要望なども取り入れて、毎月全職員が参加するケース検討会議で現状に見合った介護計画の見直しを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、要望のあるものから順次検討を進めている。例えば、緊急時の対応については、「医療連携体制」を軸にしながらサービス実施に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の要望を大切に、希望する医療機関での受診を行っている。また、医療連携で医師や看護師の定期的訪問、必要に応じての訪問受診の実施など、必要な支援体制を確立する努力を続けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応については、医療関係者・家族・職員との連携、話し合いを大切にして情報や今後の方針を共有している。また、職員を対象にして看護師による「ターミナルケア勉強会」を開催するなど、対応レベルの向上に努めている。過去に看取った経験をもとに、他の事業所の勉強会への参加もしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重した声かけや、介護対応に留意するよう職員会議などで指導・徹底を凶っている。また、部外者の目に触れる恐れのある資料は、個人名をイニシャルで記載するなど注意している、併せて、個人データを職員室から持ち出さないよう注意も行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個人の希望に沿った日常を送れるような支援がなされている。特に、散歩や買い物などは、希望を聞いたり様子を見ながら声掛けし、職員の見守りのなか外出している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者が中心になり週1回の「献立会議」で、「好み」や「希望」等料理の本なども参考にしながら作られている。食事作りは買い物から調理、配膳、片づけまで利用者が行えるよう支援しており、職員が見守るなか楽しみながらの生活に取り込んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでは、可能な限り毎日、利用者の希望に沿った入浴支援ができるように、職員の勤務シフトや配置などに工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりそれぞれの生きがい・役割のある生活作りを目標にして支援がなされている。雑巾作り・ふきん作りや趣味の作品などを通して、バザーへの出品をして社会的なつながりを大切にしている。また、気晴らしに近所の喫茶店にも積極的に出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買い物や喫茶店、コンサートなど外出の機会をたくさん作って、利用者の豊かな生活の確保がなされ、ホームでの日常生活のメリハリをつける努力がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	なぜ、「鍵をかけないケア」が大切なのか。なぜ、「生きがいと役割を持った日中の活動の充実」が必要なのか、などを職員会議などで検討し、全職員共有の意義とすべく努力がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署に届けた「火災避難訓練」を実施している。今年度初めて、地域住民にも呼びかけて実施した。運営推進会議でもこのテーマを取り上げている。	○	地域住民との繋がりを一層深め、災害時などには協力してもらえるような関係作りに引き続き取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量などを把握し、栄養バランスや水分量にも留意している。医師の助言についてラコール（経腸栄養剤）の活用もしている。食事内容について、栄養管理士の助言・指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者にとって快適であるように、光や音や温度などに配慮がされている。また、ホーム内には行事などの写真を張り、焼き増しの要望にも応えている。併せて利用者の絵や習字などの作品も展示して親しみやすい雰囲気作りもされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、個人生活の基盤であり、個人個人が自由に居心地良く過ごすことが出来る環境作りが大切である。職員は、本人や家族と相談しながら、馴染みの家具や備品の配置、思い出の品々の飾りつけなどの支援をおこなっている。		